

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立福岡高等学校

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画(4月)				評価(総合)	評価(総合)	学校関係者評価	
学校運営方針		【校訓】『至誠業ヲ勵ミ 剛健風ヲ成シ 操守堅固ナルベシ』 伝統を継承するとともに、清新な学校づくりを目指し、次の取組を推進する。 ○校訓のもと、気高きのある生徒の育成 ○知性を磨き、真理を愛し、文武にわたって努力する誇りある生徒の育成 ○豊かな情操と広い視野を持つ生徒の育成 これらを中心に据えて「鍛ほめ福岡メソッド」を実践することにより、「福岡県教育大綱」が掲げる人財の育成に努める。			A		A
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標			
昨年度は「学ぶ力の育成」と「人間力の育成」を目標にして、自律的な学びを実践できる学習育成と他者を感じる力・他者をつなぐ力を育み、本校の校訓にもある「個の中で文武両道の達成」と「豊かな情操と広い視野の育成」を目指した。しかし、これらは決して単年度で身に付くものではなく、継続・発展が必要であり、本年度においても重要課題として取り組んでいきたい。また、学校行事及び部活動の充実発展も継続し、社会を逞しく切り拓く強靱な心身の育成を図る。 教職員はこれらを念頭に、生徒に考えさせ、判断し、行動できる力を育むための授業や指導を心がけ、自主的に発展的な校風を「新しき伝統」として確立できるよう考えられた指導計画を作成し実践するものとする。		1 未来を切り拓く学ぶ力の育成【知性】		① 思考力、判断力、表現力を高めるとともに、知識の理解の質を更に高め、自立の基盤となる確かな学力を育成する。 ② 主体的・対話的で深い学びにより、本質を捉え真理を求めめる態度や、自ら課題を見出しその解決策を探索する力を育てる。 ③ 自律した学習習慣と、志の実現に向けて粘り強く果敢に挑戦できる学習体力を育成する。		A	A
		2 未来を切り拓く人間力の育成【気概・社会性】		① 高い志のもと、課題意識を持って社会の変化に主体的に向き合い、社会の発展に貢献しようとする気概を育てる。 ② 福高生としての誇りをもって文武両道に励み、失敗を恐れず果敢にチャレンジする意欲・態度を身に付け、豊かな社会を逞しく切り拓く強靱な心身の育成を図る。 ③ 他者を感じる力・他者をつなぐ力を身に付け、集団の中での自己の役割を把握したうえで、他者と協同して粘り強く目的の達成を目指す力を培う。 ④ 豊かな情操と道徳心を基盤に、多様性を受け入れ、いじめや不正を許さない意識や態度を醸成し、公共の精神に基づく社会の一員としての自覚と責任感を育てる。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学力の向上	【教務課】 ①自律した学習習慣と、粘り強く学習する体力の育成 ②観点別の多面的な評価の充実 ③校務支援システムの安定運用を目指す。	○複数の自習室を確保し、落ち着いた自主学習に取り組める環境を整える。また、生活の記録を各学年ごとに必要な時期に実施し、生徒の状況を把握し指導に役立てる。	A	A	【教務課】 ○講義室5を3年生用、講義室4を全学年用としている。毎朝学習している生徒が多い。今後も補習時の自習教室として継続使用していく。 ○採点システムが導入され、それに付随して考査における観点別評価の教員の作業量が減った科目が多い。今後、考査の作成についても観点別を意識したものになってくることが予想されるが、福高として考査のあり方は、採点システムが導入されても、質の低下がおこらないようにしなければならない。今後、そのようなところにも注意して各教科考査の検討をお願いしたい。 ○1、2年生については、観点別評価も行い、多くの先生方も評価方法について、習熟してきている。しかし、教育の質の維持向上という部分では、考える必要がある。評価の方法が変わったということからも、観点別の配分等について、各教科再度検討をしていただきたい。 【図書課】 ○「読む」という営為の尊さを福高生に伝え続けるという目標の一層の具現化を企図して、常設している「本の紹介コーナー」の周知を、図書委員の活動に加えて、情宣に努める。 ○「名著」の積極的な情宣活動を行うという図書委員、図書系の活動を、HRレベルにまで広げて、多くの福高生に書物の世界の扉を開かせたい。 ○図書委員の試行錯誤を重ねた努力と熱意によって「読書会」の質が、もう少しで「福岡高校の読書会」になりつつあるので、図書館として、支援を惜しまない意向である。	A	○福高は一般入試では合格できない生徒が多いので、特色化選抜を導入してほしい。
		○本校における観点別評価を12年生において実施し、評価を通して、生徒の【1】自らの学習を調整しようとする側面(自己調整)【2】粘り強い取組を行おうとする側面(粘り強さ)の育成を図る。	A				
		○校務支援システムの安定運用によって、全職員の効率的な業務遂行の推進と負担軽減に努め、業務の効率化や教育の質の維持向上を図る。	A				
	【図書課】 ①「読む」という営為の尊さを福高生に伝え続ける。 ②「名著」の積極的な情宣活動を行う。 ③「読書会」の質を、「福岡高校の読書会」に値するまでに高める。	○本校では長年に亘り、「新入生課題感想文」の提出と1・2年生を対象に「全国青少年読書感想文コンクール」への応募を行わせているが、4月の図書館オリエンテーション時に、「読むこと・書くことの意味」について、「福高百冊ブックレット」を用いて一層深い啓発を行う。	A	A	A	○福高は一般入試では合格できない生徒が多いので、特色化選抜を導入してほしい。	
	○福高祭での「読書会」の実施と、「福高ビブリオバトル」を通じて、名著と言われる本の紹介を行い、福高生の知的世界の扉を更に広げたい。	A	A				
	○「日常の読書」の取り組みを深化させる意図で実施している「早朝開館」を今年も継続する。	S	A				
	【情報課】 ①教育の情報化 ②ネットワークの管理 ③1人1台学習者用端末Chromebookの活用	○校内Wi-Fiの整備、電子黒板を含むICT機器の運用・管理を行い、教育の情報化に努める。	B	B	【情報課】 ○デジタル採点システムの操作研修を通して、システムの利用者が増え、教育の情報化を推進することができた。次年度に向けて、Google Classroomでの答案用紙の返却に関しては、セキュリティ面には十分に留意しつつ、更なる教育の情報化の推進に努めたい。また、ICT機器管理に関しては、前年度の反省が十分に生かされず、管理の徹底が出来ていなかった。次年度では、ICT管理台帳や管理体制の見直し、管理を徹底していきたい。	B	○福高は一般入試では合格できない生徒が多いので、特色化選抜を導入してほしい。
	○ICT活用の手引きに沿ったネットワーク運営を行い、安定した操作環境を整える。	B					
	○校内研修等を充実させ、Chromebookの授業での積極的な活用を促す。	A					
生徒の健全育成	【生徒指導課】 ①主体的に考え、判断し、行動できる実践力の育成 ②生徒による部活動の活動・運営への支援 ③安全安心に生活できる環境づくり	○生徒会と連携を図り、制服の着こなしやスマホの取り扱い等に関する校則の見直しを進める。また、教員の生徒指導の方向性を整理していく。	A	B	【生徒指導課】 ○引き続き、生徒会と連携した校則(制服やスマホ等)の見直しをしていく。 ○積極的な挨拶などで明るく過ごしやすい環境を整えていく。 ○安全安心に生活できる環境を心がける。 ○生徒会と連携して時を守ることの大切さやマナーについて意識させる。(下校時間の徹底、登下校マナー)	A	○悩みを抱える生徒や不登校の生徒等に対するカウンセリングの重要性が増している。回数を増やすようにしてほしい。
		○各部長を中心とした生徒による活動・運営となるように、部長会を積極的に行い、指導を継続していく。また、充実した活動・運営となるような支援を行う。	B				
		○いじめアンケートや学校生活アンケートを活用したり、防犯対策を積極的に行ったりして、生徒が安全に安心して登校できる環境づくりを行う。	B				
	【保健課】 ①心身の問題を抱える生徒の早期発見と早期対応 ②保健管理・安全・健康に関する指導の徹底	○配慮を要する生徒に関する情報を全職員で共有する場を設定し、その資料作成等にSCの意見を取り入れながら持続可能な運営の形を構築する。	A	A	【保健課】 ○専門医による思春期講演会やSCIによるストレスマネジメントの内容を授業とも関連付け、生徒の理解や問題解決能力の向上に繋がるよう、各教科とも協議しながら計画する。 ○ウェルホスの観点から、生徒が主体的に環境衛生に関わることができるよう、保健委員会を中心に働きかける。 ○ストレスの分析と対策については、職員アンケートの実施などを今後も継続して行う。	A	○いじめ等の認知件数が少ないのは良かったが、人権感覚を養うような指導を充実してほしい。
		○SCや事務室とも連携しストレスの分析と対策を行い、よりよい職場環境作りに繋げる。	B				
		○がん教育含むさまざまな健康教育を各教科と連携させるとともに、思春期講習会等にも効果的な内容となるよう、講師との打合せを丁寧に行う。	A				
	【生徒会課】 ①自治的な活動を行える生徒会の育成 ②伝統の継承と革新	○生徒会活動の意味や価値について考え、信念を持って主体的に活動できる生徒会を育成する。	A	A	【生徒会課】 ○本年度は特別生徒総会を実施することで、学校のあり方や生徒心得について考える時間をつくることができたが、十分な成果を上げることはできなかった。来年度は年間を通して福岡高校がどうあるべきかを生徒自身が考える時間とそれを共有する時間の拡充を図りたい。 ○行事については日程なども含めて適切な内容になるように、生徒間、教員間、生徒教員間の協議を継続的に行う。	A	○福高生がどうあるべきか、先輩の思いをどのように引き継いでいくかを考えることは大変重要で素晴らしい。
○学校生活や校則等について考える機会を作り、代表議会の定期開催や生徒総会の充実をはかり、主体的な学校づくりを進めていく。		B					
○各行事においては生徒が一丸となり、福高の文化、伝統、精神を共有していく。また、福高の伝統を継承するとともに、社会情勢の変化や時代の潮流に応じて革新していく。		A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路指導の充実	【進路指導課】 ①補習の内容充実と出席率の向上 ②進路関連情報の有効活用 ③外部模試結果の分析と共有	○補習受講の意思を丁寧に確認し、主体的に受講させる。受講科目については基本的に皆勤を目指す。同時に補習内容を精選し、内容充実を目指す。	B	B	【進路指導課】 ○補習について、講座内容の説明や検討期間を改善し、主体的な受講を呼びかけた。受講率は年次が上がることに低下しており、昨今の社会事情を鑑みると本校の補習授業の在り方について検討する必要がある。福高模試、実力テストについては内容、分析ともに本校の伝統を継承した充実したものとなっている。 【キャリア教育課】 ○キャリアセミナーならびに大学研究セミナーは、同窓生幹事や該当学年主任を中心に様々な方面からご協力を頂き、さまざまな分野から講師を招き行事を実施することができ、生徒に大きな刺激を与えることができた。総合的な探究の時間については、3年間の集大成としての論文については今後検討の余地がある。 【医進教育課】 ○3年医進類型生徒対象の指導は、志望理由書添削および面接練習を生徒個別に実施中であり、予定通りに進行している。2年生医進類型生徒対象の医進プログラムは、病院訪問等も医進類型生徒が実際に向うくかたちで実施できた点が成果であった。地域医療講義に関しては従来の講師に代わって新たな講師を招聘することができ有意義な研修の機会となった。また2年修学旅行では希望者に対して東北大学医学部キャンパスの見学研修を実施できたが希望者に医進類型生徒が少なかったことが反省点である。医進プログラムに関する広報活動は、プログラム実施の都度1・2年生各クラスに行った。今後さらに広報活動に力を入れていきたい。 ○78回生は2年次に医進クラスが立つ予定であり、クラスとしての一体性を持った指導に注力することが今後の課題である。	A	○朝課外は、教員の負担はあるだろうが、生徒の進路保障、保護者の経済的な負担を考え大変ありがたいので、継続してほしい。  ○キャリアセミナー、大学研究セミナーは生徒のキャリア発達の一助となっていて素晴らしい。  ○医学部医学科への進学実績だけでなく、医師に必要な資質能力を身に付けることができる医進プログラムは大変重要である。
		○進路指導資料(6月、9月)の活用場を各学年ごとに具体的に設定する。また、進路意識アンケート(各学期)の分析結果を示し、生徒へのはたらきかけにフィードバックする。	B				
		○福高模試、実力テストをより充実した内容とし、成績の現状把握とともに第一志望実現のモチベーションとなるはたらきかけとしての意義を高める。	A				
	【キャリア教育課】 ①高い志を確立する契機となる様々な学びを通して社会に貢献できる人間力の育成	○キャリアセミナーや修学旅行の研修プログラムを通して、職業観や勤労観を形成し、社会に貢献する態度や姿勢を育成する。	A				
		○大学研究セミナーや高大連携事業を活用して、大学での学びに対する興味関心を深め、進学する意義や目的意識を明確にする。	A				
		○教務部教務課と連携して、総合的な探究の時間をキャリア教育として有効活用できるよう、体系的なプログラムを計画し実施する。	B				
	【医進教育課】 ①医学科希望生徒への進路支援と医師を志す者のための様々な学びの充実	○医師を目指す生徒の資質向上とモチベーションの向上に関与する現役医師による講演会および研修の企画立案と精選。	A				
		○医学科への進路実現につながる具体的内容を含む講演会の実施と、志望理由書作成指導および面接指導等の充実。	A				
		○医進プログラムに関する広報活動の実践。	B				
教員の資質・能力の向上	【企画広報課】 ①コロナ禍後の諸行事の新たなあり方の検討 ②日常の広報活動を工夫し、本校志願者増を達成 ③本校ウェブページの早急なりニューアル	○式典・集会をコロナ禍以前のスタイルに戻しつつ、改善を図る。	B	B	【企画広報課】 ○保護者対象説明会の単独実施は4月初めに年間行事に入れ込む必要がある。年度途中の計画では遅い。保護者の参加が倍増したことを受けて次年度は本格的な対応を要する。 ○学校案内パンフレットのページ数を増やし、質問の多い項目についてのほぼ全ての情報を掲載できた。次年度はより早期に製作を始め完成を早めたい。 ○新しいウェブページの完成が3学期にずれ込んだ。今後古い情報は迅速に削除し、常にアップデートされた最新情報が掲載されるように運営体制を整えたい。 【研修課】 ○授業アンケートについては、今年度新たに作成したGoogleフォームで実施できた。特定の科目において、生徒の誤解を招くような質問があったため、次年度は質問内容の改良が課題である。 ○保健課と連携した「いじめ」の研修は、職員の共通理解に有意義であった。次年度も保健課・SCと連携し、早期の計画立案が必要である。 ○一人一台学習用端末の活用については、教科・学年を越えて、授業等の実践例の共有が次年度の課題である。	B	○ICT活用に関する研修は、今後の動向を見据えて継続的にこなしてほしい。  ○いじめに関する研修は、いじめの未然防止、早期発見につながると思われるので、是非とも継続してほしい。  ○保護者の関心が高い学校なので広報活動の充実を図ってほしい。
		○中学生の体験入学における「保護者対象説明会」を別日程で実施し、中学生保護者に対してより手厚い説明を施す。	B				
		○昨年度実行できなかった本校ウェブページのリニューアルを早急に行い、より迅速に情報をアップデートする。	B				
	【研修課】 ①職員及び教育実習生の資質向上に資する研修内容の充実 ②教育目標の達成に向けた授業改善と指導力の向上	○情報課と連携して、ICT活用指導力向上のための研修を学期毎に実施し、授業等における一人一台学習用端末の活用機会を増やす。	C				
		○保健課と連携して、多様化している生徒の状況に鑑みたテーマを設定し、適切な時期に研修を実施する。	B				
		○新課程に即した授業アンケートをGoogleフォームで実施し、回答率の向上を目指す。	A				
第1学年の取組 学年テーマ 「万里一空」	基本的生活習慣・学習習慣の確立	○健康や時間等の自己管理能力の大切さを継続して説き、本校生としての基本的な生活習慣の早期定着を図る。	A	A	○学校の授業を中心とした学習習慣の重要性を授業や課題を通じて伝えることができた。補習の受講率も低くなく、ある程度浸透したものである。 この状況を次年度も継続できるような仕組みや声掛けを実施していきたい。 ○学年として、HRの時間等での面談の時間設定ができなかったため、組担当の時間の調整により面談を実施することとなり、組担当の負担が増加したのは課題。丁寧な聞き取り等で、生徒の状況を把握できたのは、組担当の尽力のおかげだと思う。次年度は組担当の負担が軽減するような仕組みが必要。 ○教科での授業進度等の議論が活発に行われ、学年全体での授業の改善の雰囲気醸成できたと感じている。これは、次年度も続けていきたい。 ○学年行事を実施し、振り返りを行いながら、学年をけん引するリーダーも現れてきたのは良いことだと思う。授業でのリーダーシップを発揮する生徒も増えてきているので、各場面で生徒の持ち味を発揮させられる環境を作っていきたい。 ○生徒心得の見直しの動きが出てきたが、生徒への指導に関して、コミュニケーションを取りながら、調整していきたい。生徒自治と指導の匙加減を調整したい。 ○学年集会等で生徒が個性を発揮する場面を何度かではあるが設定できた。集団における自己の重要性を自覚し、よりより集団として成長できるよう指導したい。 ○進路に関する情報提供としては、総合的な探究の時間でのキャリアセミナーに加え、九州大、福岡女子大の模擬講義を実施するなど刺激を与える機会は設定できた。また、希望者ではあるが、関西研修に連れていき、有意義な研修が行えた。次年度は修学旅行を活かしながら、進路意識を醸成するとともに、より広い視野でものを見る姿勢を養いたい。 ○新入試や外部模試の成績情報の共有などの情報を共有する場を学年教員団での共有も十分には行えなかった。次年度は共有を積極的に行い、学年団で指導の方向性を合致させた状態で生徒に声掛けを行いたい。	A	○多様な生徒が入学してきていると思われるので、入学時の初期指導の充実をお願いしたい。  ○関西研修や修学旅行で関東や関西の大学に目を向けさせることは、進路の幅を広げる意味で大切なことである。  ○学年行事を実施することで、学年をけん引するリーダーも現れてきたことは素晴らしい。学校行事についてもさらに効果を期待したい。
		○個別面談等で生徒の個性理解に努め、学年全体で情報を共有して集団指導や個別指導に取り組む。	A				
		○生徒が授業を中心に前向きに学び、基礎学力・学習習慣が定着するよう、学年全体で授業の改善に努める。	A				
	生徒の主体性の育成と多様性を尊重する風土の醸成	○部活動・委員会活動、その他成長につながる校内外の行事・活動への参加を積極的に促す。	A				
		○学年行事において、生徒が主体的・協同的に企画・運営する機会を設け、自力での課題解決の経験をさせる。	A				
		○所属する集団における自身の存在、影響の大きさを自覚し、集団の構成員としての行動力と責任感を育む。	B				
		○他者との違いを認め、多様性を尊重する豊かな人権感覚を有する集団形成を図る。	A				
	高い目標を設定し、そこへ向け全力で努力する態度の養成	○生徒が自身の可能性を信じ、より高い目標掲げる雰囲気醸成し、進路行事や総合的な探究の時間を運営する。	A				
		○志望校合格という出口の進路指導に留まることなく、中長期的な進路観を育むための声掛けを行う。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
第2学年の取組 学年テーマ 「雲外蒼天」	主体的学習力・行動力の育成	○生徒の知的好奇心を刺激し、学ぶ喜びを伝える授業をすることで、自ら学び、高めようとする意欲を喚起する。	A	A	○学習意欲が高く、授業に対して積極的な態度で臨む生徒が多いと感じている。成績上位者が核となり周囲を巻き込んでいる状況がみられる。生徒の学習意欲が高まる環境づくりについて、3学年にも繋げられるよう学年団で情報を共有しながらサポートしていきたい。一方で、学習意欲が低く授業や補習に消極的な生徒に対しては、3学期から3学年に向けて意欲を喚起させるために、面談等の働きかけを促進していきたい。  ○行事を生徒が企画・運営する機会を増やしたことで、個人差があるが集団への帰属意識、集団を牽引するリーダーシップ等が養われてきた様子は窺える。来年度は3学年として、様々な場面で学校を牽引していきけるよう、個々の力の醸成に引き続き働きかけていく。一方で、公共心や社会性が未熟な生徒に対しては、生徒の中で高め合わせる支援をしたり、考えさせ、気づかせる機会をつくったりしていきたい。  ○地域課題探究、修学旅行の震災研修・職場訪問研修、社会課題探究などを、「総合的な探究の時間」と絡めて生徒が主体的に取り組めたことは、キャリア意識の向上に大変有効であった。将来の自分の進路に対する意識が高まったことが、学習意欲を向上させ、人格的な成長を促したように思える。来年度は、高い志、高い目標の実現に向けて、易きに流されず粘り強く努力を続けられよう、学年団で結束して支援していきたい。	A	○中核の学年として、次年度は学校行事での中心的な役割を担い、全校生徒を引っ張る推進力になって欲しい。  ○学習状況について成績上位層の指導のみならず、下位層の指導についても差が大きくなるようできるだけサポートをお願いしたい。  ○生徒のキャリア意識の向上への取組みは素晴らしい。高い目標を設定しチャレンジさせてほしい。
		○生徒の個性を学年で共有しながら、長所を伸ばし、やる気高める接し方に努める。	A				
		○心身の健康、時間の大切さを考えさせる機会を増やすことで、自らを制御する力の育成を図る。	B				
	公共性・社会性の養成	○属する様々な集団の構成者であるという自覚と、集団を牽引するリーダーシップの育成を図る。	A				
		○社会のルールやマナーの意義を考える機会を増やし、社会人として必要な素養と公共心を育む。	B				
		○生徒会活動への積極的な参加を支援し、自ら他者と繋がり、有意義で秩序ある組織をつくる力を養う。	A				
		○違いを認め多様性を尊重する豊かな人権感覚を有する集団形成を図る。	B				
	向上心・挑戦心の発揚	○学習や部活動など生徒が挑む様々な世界において、その頂点(トップ)を目指す意欲を喚起し支援する。	A				
		○生徒自ら設定した目標達成に向けて、生徒の潜在能力を信じ彼らの「PDCA」を支援する。	B				
○生徒が主体的に取り組む分野において、高いレベルを生徒に提示できるよう学び続ける学年団を目指す。		A					
第3学年の取組 学年テーマ 「果敢」	知的好奇心や問題意識に基づく「学びの主体性」を高め、確かな学力を培う	○知的好奇心・問題意識を喚起し、長期的視点に立ってする授業を追究し、実践する。	B	A	○改めて「学びの主体性」を高めるとはどういうことなのか、ということを教員が議論して行く必要がある。眼前の成績向上(即効性)にとらわれすぎ、打算的な学習に走る風潮を強く感じるが、低年次から知的好奇心や問題意識を喚起する授業を目指す雰囲気醸成していく必要があると思われる。 ○定期考査の学力定着や評価の機会としての意義が薄れていることが懸念される。生徒が考査自体を軽視する側面と、教員の出題水準の読み違いの側面の双方に目を向けて対策をとっていくべきである。 ○成績不振者を早期に把握し、不振の原因を多面的に分析するために、組・教科・部活動担当の情報共有・対応策協議が不可欠である。考査直前の補講だけでは対応できない生徒も多く存在し、平素からの継続的な指導方法を検討しなくてはならないだろう(但し、安易な宿題の提示や、強制的な居残り学習等では解決できず、個に応じた、学ぶ意欲を高める指導方法の模索が肝要であると考えられる)。 ○大学入学(受験での合格)のみを進路実現と捉えず、豊かな人生を創り、平和な社会を構築する人材を育成するという観点で、生徒の進路実現意欲(主体的に進路選択する気概・志)を涵養する取り組みが不可欠だろう。具体的には、生徒主体の自治行事や修学旅行、総探などを活用しながら、できる限り多くの人と交流する機会を持たせるなどして様々な価値観に出会う場面を確保し、生徒の人生観・社会観を揺さぶり、社会(問題)に目を向けさせ、志を涵養するような経験を数多く積み重ねさせたい。ただ、そうした取り組みを行うタイミング・バランスについては、体系的なものとなるよう、よく検討していかなければならないだろう。 ○人間力向上のために欠かせない生徒自治の活性化と水準の高揚を積極的に促していかなければならないだろう。コロナ禍での学校行事が途絶えたり、規模縮小したりした影響も少なからずあるとはいえ、近年の生徒自治の水準低下は否めないと感じている。生徒と教員の距離感に留意しつつ、生徒たちの活発な議論や視野の広いリーダーの育成等において、「問いかけ」を中心とした「促し」も適宜必要であろう。 ○バランスの取れた学年団の分掌体制をつくり、教育活動の目的や方法論について、丁寧な議論を重ね、日々の教育活動を組織的に進めて行かなければならない。また、他学年・他分掌との情報共有や調整を行うことで学校全体の有機的結びつきによる教育効果向上に寄与しなければならない。	A	○生徒の第1志望の進路を実現するためにも、学びの主体性を高めることや問題意識を喚起する授業を粘り強く行っていくことがとても重要である。  ○人間力向上のために欠かせない生徒自治の水準が低下しているのは、やはりコロナ禍の影響があるのではないかと。  ○成績不振者や不登校生徒など、支援が必要な生徒の情報共有、対応策をお願いしたい。
		○目先の成績向上(即効性)にとらわれすぎず、中長期的な視点をもち、地道で継続的な学習を促す。特に日常的な自学環境の整備に努め、放課後等の教室・自習室活用を推奨する。	A				
		○組担当・教科担当・部活動顧問等で情報共有を図り、成績不振者に組織的に対応する。	A				
	自ら抱いた志を進路目標として具体化し、果敢に、そして粘り強く自己実現に取り組む力を培う	○進路関係行事や主権者教育等を通じて視野を広げ(社会に目を向けさせ)、社会的課題と自己の将来像を結びつけて考えさせ、高次元での自己実現を目指す姿勢を涵養する。	A				
		○学年集会やHRでの講話、個人面談等に整合性を持たせながらその充実を図り、進路実現に向けたモチベーションの高揚・維持(第一志望貫徹)を支援する。	A				
		○現行課程の最終学年としての不安をできるだけ払拭しながら、妥協せず果敢に進路志望を貫くための知識や思考力、気概を持たせる。	B				
	リーダーシップとフォロワーシップのバランスの取れた、学校を牽引する集団形成を推進する	○協働的活動を推奨し、自分たちで課題を解決する力を培う。その際、特に、多面的な思考や多様性を尊重する姿勢(健全な人権感覚)を持たせることを重視する。	A				
		○生徒会総務部や各行事における実行委員会の自治的運営水準(創造性・意思決定手続きの妥当性・計画性・実効性)の向上をサポートする。	B				
		○様々な立場の生徒が意見を表明する機会を数多く設け、他者の考えを尊重し、高め合う雰囲気醸成する。	A				
	組織的に機能する学年団の形成を図る	○教育活動の目的や方法論、生徒の抱える課題等について議論して共有する。	A				
		○妥当性の高い手続きをとり、効果的でバランスの取れた分掌(役割分担)体制を構築して組織的な教育力を高める。	A				
	事務室運営	校内各工事における安全の確保	○修繕が必要な箇所に対して迅速に対応するとともに、工事等の周知を丁寧に言い、生徒・職員の安全確保に努める。	A			
○各所と綿密に連絡調整を行い、学校行事・授業への影響を最小限にする。			A				
効果的な予算の執行		○予算執行にあたっては、関係する教員と十分に協議し、必要な教育成果があげられるよう効果的な予算執行に努める。	B				
		○事務処理において内部でのチェック機能のさらなる充実を図る。	B				
相談しやすい事務室の運営		○就学支援金・奨学金給付金業務において、わかりやすく丁寧な説明を行い、スムーズに申請・認定ができるように努める。	A				
		○様々な問い合わせに対し、平易でやさしい言葉遣い等の接客を心掛け、相談しやすい環境を作る。	A				

**自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策**

- ・生徒に関する情報共有、共通理解を年度初めから定期的に行い、対応は組織的に行う。
- ・補習等の実施方法を再検討し、補習が生徒にとって機能するような形を模索する。また、医進類型についても今年度に引き続きクラス立てができるようにする。
- ・職員の情報セキュリティへの意識を上げるための研修を継続することで、自動採点システム等の活用率を上げていく。
- ・生徒の規範意識の育成と人権感覚の醸成のために職員間の共通認識が必要である。

評価項目以外のものに関する意見
特記事項なし